参考資料

資料２

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパルの取組状況について

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパルは、学校や社会教育団体等の宿泊研修をはじめ、企業・家族など誰もが利用できる青少年教育施設として、道内６か所（砂川市、深川市、森町、北見市、足寄町、厚岸町）に設置されている。H18～19 年度に指定管理者制度を導入しており、民間の経営ノウハウを活かしながら、駐在する道教委社会教育主事と連携･協力し、青少年の集団宿泊活動、自然体験活動その他の体験活動を支援することにより青少年の健全な育成を図るとともに、道民の生涯学習活動を促進する取組を推進している。

１　地域とのつながり

(1)　地域の多様な担い手との連携

市町村（教育委員会を含む)、学校、文教施設、地域の生産者、企業、社会教育団体、地域住民と積極的に連携した主催事業の企画･実施、体験活動プログラムの開発

(2)　地域に根差した施設運営

・圏域の教育関係者や団体等で構成する「施設運営委員会」を設置し、施設運営の評価･改善について意見を聴取

・施設に親しみ、理解を深める交流事業の実施（ネイパルまつり、パークゴルフ大会、コーヒー教室など）の開催

・地域の学校や福祉事業等へのアウトリーチ（各種プログラムの出前指導など)、インターンシップや実習の受入

２　障害者の受入状況

(1)　受入体制

・施設のバリアフリー対応（誘導音、スロープ、点字、宿泊室、トイレ、浴室等）

・学校、保護者との配慮事項の事前確認、状況に応じた利用のサポート（施設内の動線の配慮、食事の配膳方法、入浴時間の調整など）

・職員の理解とスキルアップを図る職場研修の実施

(2)　主催事業

・多様性理解や障害者の生涯学習等をテーマとした主催事業の実施（Ｒ４年度３施設、Ｒ５年度４施設）

・障害の有無に関わらず参加できる主催事業の企画・運営（障害者が参加できること、または、参加について相談できることを開催要項に明記、障害や特性についての事前把握、スタッフによるサポート体制、余裕のある日程など、安心・安全に配慮した運営）

(3)　課題等

・施設のバリアフリーが十分ではないため、職員の細やかなサポートで対応

・障害等に応じた体験活動プログラムの工夫

３　学習のデジタル化の状況

(1)　環境整備

・施設内の Wi-Fi 環境を整備

・大型モニター、プロジェクター、電子黒板、貸出用タブレット等の ICT 機器を整備

(2)　ICT を効果的に活用した取組

・オンラインでのプログラム相談、事前打合せ

・施設利用オリエンテーションや体験プログラムの動画を YouTube で公開し、事前学習や当日の導入等で活用することにより、子どもたちの十分な活動時間を確保

・Web フォームを活用した主催事業の申込み、アンケートの実施

・e-スポーツやドローンを体験する「デジタルキャンプ」の実施（１施設）